

第2回 中心市街地市民意見聴取会

- 日時：平成21年10月24日（土） 午後1時30分から午後5時15分
- 場所：松阪市産業振興センター3F（松阪市本町2176番地）
- アドバイザー：芹澤高斉氏（三重中京大学准教授）
岩田俊二氏（三重短期大学教授）
浅野 聡氏（三重大学准教授）
中谷 泰氏（中心市街地商業活性化アドバイザー）
- 三重大学院生：神谷悠美氏、小池道宏氏、原郭二氏
- 松阪市：山中市長、稲垣建設部長、村田商工観光部長、中山まちづくり統括担当参事、
牧戸文化担当参事、長野中心市街地活性化室長
- 松阪商工会議所：高畑専務理事
- 参加者：110名

1. 開 会

- 意見聴取会の趣旨について：中山統括担当参事

松阪市全体のまちづくりを考えながら、松阪駅を中心とした中心市街地の整備を行うために、市民や専門家の意見を伺い、中心市街地活性化を目的とした市街地整備のあり方を検討する会としています。そうした中で第2回目は、居住環境の向上と歴史文化を活かした「まちなみ整備」について、また、松阪駅西地区市街地再開発事業区域、松阪駅前広場、三交百貨店跡地、駅前通りといった「松阪駅周辺の整備」について、具体的に「これからのように整備をしていくか。」について市民の皆さまや専門家方々からご意見をいただき、共に考えていきたいと思っております。

- 開会の挨拶：山中市長

本日は土曜日にもかかわらず、皆様ご参加していただき感謝を申し上げます。本当に第1回中心市街地意見聴取会では、さまざまなご意見をいただきました。かなり漠然とした形の中心市街地ということに関して、本当にお金をかけていいのかどうかという議論の中で、具体的にどのようなまちづくりを松阪市は目指していくべきなのか。今回の2回目、そして、3回目が終わり、今年度中には松阪市として形のあるビジョン、具体的なハード面での整備、そしてソフト面でのビジョン、そして方向性をどういったものにしていくか。というものを皆さんと一緒に考えた結論を活かした形で松阪市の中でどういった取り組みをして行けるのかを考えて行こうと思っています。

これからの松阪市を見て、どういうビジョンのもとで、文化、そして歴史、そして地域ということ、どんなビジョンを思い浮かべるか。他の方々に伝えるときに、松阪市はこ

ういう街だよと言いたい時に、「松阪牛の街だよ」ということでしか言えないのは寂しいと思っています。

私は一つテーマを、提示させていただきたいと思います。今後の松阪市のビジョンのあり方として、「食と歴史のまち」ということに対してある程度テーマを絞っていいかと私は思っております。

食ということでもこれまでは、松阪牛にある意味頼ったような食というところでしたけれども、松阪には松阪牛のほかにホルモンという文化もあります。さまざまな多様な食、例えば飯南、飯高地域ではクレソンの栽培をしていく中で、地域活性化というふうになっています。そして食というものがもたらす、健康的な効果というものを様々な形でございます。その中で、松阪市はフードバレー、食の文化の発信地とした役割を持っています。

その中でまず第1段階として、松阪市が食の街としての位置づけ、それもテーマを作るとすると、「B1グランプリ」というものが毎年各地域で行われており、静岡県富士宮市では「富士宮やきそば」というのが全国的に広がっていったのは、単に昔からあるとかそういうことではなくて、今新しく地域の方々、または商店街の方々、または商工会の方々が盛り上げる中で、行政も一つの方策として、この「富士宮やきそば」を振興の目的のためだけに使うようなそういう発想ももっていると思います。

松阪市も次年度以降ですが、「B1グランプリ」というような1つのテーマをもつ中で、そういう部分でも全国的に発信できるようなそういう位置づけも持たそうかと思っています。

もう一つは歴史という点です。歴史も本当に松阪市においては、古墳もあれば、遺跡もありますし、当然、本町、魚町の界隈におきましては、様々な歴史的な建造物、そして、文化遺跡の国指定など松阪城跡の問題もあります。

そういう中で、ある意味、様々な歴史や文化を背負っている中で私が一つ、今回テーマに絞らせていただきたいのが蒲生氏郷という人物です。蒲生氏郷はこれまで議論にもあがりましたが、NHKの大河ドラマにしっかりと位置づけていこう。松阪市が、松阪市民が地域から盛り上げていく中で、蒲生氏郷をNHKの大河ドラマにしていこうというプロジェクトを提案したい。私自身の結論として、蒲生氏郷が大河ドラマになる。松阪ホルモンというものが「B-1グランプリ」で優勝する。そういったことが目的ではないのです。食と歴史というテーマにおいて、一つ一つの目的に向かって行っていく、私自身だけが、行政だけが、頑張ってもまちづくりは出来ません。

その中で、財政状況も厳しい中で、地域の方々、様々な団体の方々、まちの市民皆様でこれまで歴史に関心が薄かった方々も含めて、松阪市の未来をどうつくっていくかという中で、NHKの大河ドラマに蒲生氏郷の町をつくっていこうではないか。松阪ホルモンという地域の文化をどう使っていくか。そういった位置づけを1つ1つ検証していく中で、街づくりを活性化させていく。そういうあり方もあって良いのではないかと思います。

食べ物を感じていただくフィールフード、そして歴史に愛情をもつヒートヒストリー、

食べ物を感じ、歴史を語れる、こういう街の中で、本当にお互いの市民の方々が、リンクしていくような、本当にお互いの市民の方々が、食に対しても愛情をもち、歴史に対しても愛情をもち、そして、松阪の街づくりに対して愛着をもつ。

そういう街づくりを、私たち行政だけが行なっていくのではなくて、市民の方々全体が頑張っていく、そういう街づくりをしていきたいと思っています。

今日は、たくさんの意見を聞くことが出来るのを期待したいと思っています。

2. 第1回中心市街地市民意見聴取会の報告

■「意見聴取会の概要報告」：長野室長

・パワーポイントを用いて意見聴取会の概要について報告しました。

(別紙資料参照)

3. 三重大学大学院演習課題発表

■商人の町まつさか、城下町活性化計画：三重大学院生（神谷悠美、小池道宏、原郭二）

●サブタイトル：「紡いで、染めて、織り上げて、木綿の製造工程になぞらえたまちづくり」

・パワーポイントと模型を用いて城下町活性化計画について説明をしていただきました。

・計画対象地域を「松阪駅周辺市街地地域」とし、【松阪駅ゾーン】、【職人町通りゾーン】、【魚町・本町ゾーン】、【武家地ゾーン】の4つのゾーンに区分してそれぞれゾーン別に整備内容を提案していただきました。

●【松阪駅ゾーン】整備のコンセプト

⇒「観光客に歩いて松阪を廻ってもらうことの魅力を伝える」、「松阪に関する知識を正しく短時間に得られる」

・提案する整備内容

⇒松阪市立図書館分館、駅前の森、駐車場、駅舎（木造）、駅前広場、駅前と職人町通りの結節点の整備

●【職人町ゾーン】整備のコンセプト

⇒「職人の技術を見て、体験する」

・提案する整備内容

⇒織物工場、職人の技を体験、職人町通りの武者隠れを利用した景観整備、職人と観光客がふれあう仕掛けづくり

●【魚町・本町ゾーン】整備のコンセプト

⇒「今に続く商いの歴史を、見て・触って・体感できる」

⇒提案する整備内容

・店舗兼併用住宅、本町通りの景観整備、坂内川の親水空間整備

●【武家地ゾーン】整備のコンセプト

⇒「閑静で美しい町を守り、継承する」

・提案する整備内容

⇒松阪工業高等学校を武家屋敷風に建替え、旧製図室の一般開放、辻とその周辺の整備、堀跡の水路再生

●【町を織り上げる】

⇒観光ルートの提案、松阪木綿をイメージしたストリートファニチャー設置

■山中市長の感想

今日の演習課題発表を見て大変感銘を受けました。どんなアイデアであっても難しいとか実現できないと考えてしまうと何も始まらないと思います。また、武者隠しや辻の活かし方など行政も学ぶべき重要な視点が多くあります。

今後のまちづくりを考えた場合、行政だけでなく民間や市民の皆さんが自分たちにも何かできることがないかといことを感じる事が始まりであると思います。

三重大学院生の皆さん、貴重な発表をしていただきありがとうございました。

4. 意見聴取

テーマ1：中心市街地のまちなみ整備

テーマ2：松阪駅周辺の整備

[座長]：芹澤高斉氏（三重中京大学准教授）

■（主な内容）

【テーマ1：中心市街地のまちなみ整備】

司会者 ここからの進行を三重中京大学准教授：芹澤座長にお願いします。

座長 第1回に引き続いて本日も進行役を勤めさせていただきます。できるだけ多くの方のご意見を承りたいので簡潔にご発言をよろしくお願いします。まず、アドバイザーの先生方の自己紹介と挨拶をお願いします。

岩田 前回は参加させていただきました。アドバイザーというよりは一緒に考えていけたら良いと思っています。予見なしでいろいろ考えていけたら良いと思います。

浅野 よろしくお願いします。私は、数年前から松阪の景観づくりをいろいろな人のご協力を得ながら、お手伝いをしてきました。松阪市も良好な景観づくりに向けて少しずつ動きはじめているので、それらのことを踏まえて参加させていただけたらと思っています。

中谷 第1回から参加させていただき、今回が2回目ですが、経済縮小や人口減少の中で、どのようにすれば街が良くなるのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

司会者 どの方面から来られていますか。

⇒本庁管内多数、三雲管内3名、嬉野管内3名、飯南管内2名、飯高管内1名

それでは、今日は、大きなテーマとして、テーマ1「中心市街地のまちなみ整備」とテーマ2「松阪駅周辺の整備」ということで2つの大きなテーマについて話をしていきたいと思います。

まず、中心市街地のまちなみ整備のテーマ1からいきたいと思います。この中では「歴史文化」「観光」「居住」といったことに関して何かご意見があればお聞かせ下さい。

参加者 今、いろいろな説明をしていただいたのですが、どうして松阪の街に、賑わい
がなくなったのか？ということについて意見を言うと、それは、人口が減った
とか、市民が郊外へ出て行ったとか、そういった構造的な問題もあるが、もう
一つ、外の客を呼んでくるアクセスの問題があると思う。これは市内の交通ア
クセスの問題もそうなのだが、そういったアクセスの問題も含めて考えてもら
いたいと思う。具体的に言うと、おそらく松阪とか和歌山など、紀伊半島の南
の方の街は飛行場が無いので、東京から一番遠い街だと思う。ということは、
いかに東京なり大阪なり名古屋などから人を集めてくるのに便利なアクセスを
作るかということだと思う。その点では、前から言っているが、近鉄の特急券
を安くして、時間を今は1時間10分ぐらいかかるのを1時間以内にしてもら
いたい。周辺市町と連携して近鉄のスピードアップをお願いしたい。近鉄はここ
20年~30年来スピードアップしていない。そういったことを全力で陳情してい
ただかないと人は集まってこないと思う。そして、もう一つの問題は自動車の
問題。パーキングが少なく、わかりにくい。市営のパーキングが少なく、何
処にあるかわかり難い。そして容量も小さすぎる。例えば、市営グラウンドを全
部パーキングにして、高速から降りてくるのに一番近い所で、大パーキングを
作ることが重要なのではないかと思う。駐車場はぜひ必要なので、駅前の再開
発の中で駐車場をどれだけ作るかということも含めて、駐車場をキーポイント
にどうおくかということが大事なのではないかと思う。

座長 アクセスの問題として近鉄のことや駐車場のことが考えられると言う事ですね。
これに関連して他にご意見はありますか。

参加者 松阪の歴史として忘れてならないのは、ベトナムのポニャというところに、松
阪町という所がある。これは松阪とずいぶん深い関係があるなと思っている。
あいそめの歴史のことに関したら、そこら辺りのことも出てくるのかなと思う。
もう一つ、駅のところに東横インのホテルが建ちます。ビジネスホテルが半分、
観光ホテルが半分です。なぜこの時代に、不景気なときになぜ松阪なのかと聞
いたら、営業部長が、「こんな松阪の駅前の良い所をほっておくのか。鳥羽へ行
くにも、伊勢へ行くにも一番良い所だと。今日、鳥羽へ行ってきて、買い
物をして、松阪で肉を食べて帰るのが一番いい。松阪のみなさんもう少し頑張
ってください。」と言われた。少し恥ずかしいと思った。アクセスの問題も言っ

ていたが、近鉄を利用すれば、そう遠い所でもない。今日の大学院生の意見や若い人の意見ももう少し聞いてもらって、松阪のことを考えていくべきだと思う。

座長 他に関連するご意見はありますか。

参加者 アクセスの問題で、駐車場のことが言われていたのだが、何年か前にコミュニティバスをどうするか？という話のときに、バス停の名前を松阪城などにすればいいのではという提案をしたのですが、反論は松阪が観光地にならないということで採用されませんでした。松阪駅で降りて何処かに行こうとしても、たぶん松阪駅から真直ぐ何処かに行こうとしても看板1つ立っていない所なので、バス停などもわからないと思う。駅を降りてこの町に住んでみたいと思う町は、目的の場所まで行きやすい町であることだと思う。松阪だと、観光客が松阪城に行こうとすれば、駅を降りてタクシーに乗るぐらいしかたどり着けないと思う。そういったアクセスの面でどうにかできないか考えていきたい。

座長 1回目の会でもおもてなしという話がありましたが、観光客をうまく案内できないかという提案がされていましたが、他にご意見ありますか。

参加者 23号線をずっと行くと、雲出川を渡るが、渡ってもそこが松阪市か何かあまりわからない。松阪市についてPRの看板、ちゃちな看板ではなく、良い看板を作ってほしい。やはり、ここに来ると松阪市に来た！という看板がないとイメージがわからないと思う。イメージがパッとわくような看板を23号線に2ヶ所ぐらいほしい。伊勢市や鳥羽に行く車も一度、松阪市に止まってから23号線に入ってもらえるような誘導看板がほしいと思います。

座長 おもてなしの心や案内看板の話が出ていますが、何か具体的な案がある方はおいですか。

参加者 テーマ1、テーマ2となっているが、この2つを合わせた意見を少し聞いてもらいたい。

私は、3年ほど前から、松阪駅前をボランティアで清掃しながら、駅の賑わいなどを見てきた。それと同時に松阪城の下の公園で、これも友人と一緒に観光客の接待をボランティアでやっている。その3年間の中で、松阪も捨てたもんじゃない！と。だいたい日曜日に250人~300人の観光客に接しているが、その中の7割~8割は県外の方。それも、北海道や沖縄など遠くからも来ている。皆さんが言われるのに、松阪は良いところですね。と、宝の持ち腐れですよ。とよく聞く。ですから市民の人ももっとそういうことに関心を持ち、心強い思いをもちながら、観光都市松阪というのをやっていきたいなと思う。おもてなしの心をもってやっていただきたいと思う。

駅前について、私は、6時半頃から8時ぐらいまで毎日見ておりますが、それについて少し話させてもらいたい。

今、市街地全体を1つの手法で整備する。ということについては、これは無理があると思われる。それぞれの地区の持っている特性や地域文化というものを考えていくと、【JR松阪駅周辺ゾーン、駅前や商店街などを含む商業ゾーン、松阪商人・商家ゾーン、松阪城および周辺ゾーン】の4つに分けて、それぞれに検討していただきたい。

今日は特に、松阪の中心となっていくけないといけない松阪駅が最も整備が遅れている。特に、松阪駅周辺ゾーンの整備について提案させていただきたい。

私としては、松阪駅前にぜひとも公園を設けていただきたい。タクシー乗り場をバス停のほうに移転して、観光センターや日本通運の所を一体的に公園にし、芝生を植えてベンチを置き、簡単な移動ステージを置いて、若い人たちがギターなどを弾いて演奏する。といったような人々が気楽に集い、楽しい憩いの場所をつくっていただきたい。

そして、駅前の交番、観光センターなどは、全く意味をなしてない。こういったのは、JR駅舎の中へ移動していただきたい。

市営駐車場は、やはり車を置くのに必要である。2F建ての駐車場にして、駐車台数を増やしていけばいいと思う。

1年ほど前は、駅前でジョギングや散歩をする方が増えていた。三交跡地は現在駐車場になっていますが、ここを広場にして、広場周辺には、ジョギングコース的な散歩道を設けていただきたい。そして、その中に、低層の田舎ふうの木造建物を建てていただいて、食材売り場、朝市、小奇麗なレストラン、喫茶店、土産物店などが入る、人々が買い物を楽しめる所をつくっていただきたい。

よく、松阪に来た人から、土産物店は何処にあるのか聞かれますが松阪には本当に土産物店がない。また、昼食に観光客が松阪牛を食べようとしても、牛銀や和田金の松阪牛は高く、昼ご飯でも15,000円ぐらいしたりする。どこか3,000円ぐらいで食事ができるところはないか？と言われてたりする。

市長も言われていたように、松阪牛をB級食材としても考えていってもらいたい。

第三銀行の裏の飲み屋街があるが、あそこは本当に汚いし、トイレも無い。そういった所は、やはり、観光客や地元の方にも愛されるために、寿司横丁やラーメン横丁のように、焼肉ホルモン横丁というものを作り、気軽においしい肉が食べられる所、そういうところを設けていただきたい。

それから最後に、駅前の噴水が故障しているが、修理せずにそのままになっている。モニュメントを変えてほしいと2年前から言い続け、今年の初めによく変えてくれた。もっと噴水塔を完全に直してもらいたい。噴水塔の修理に多額の費用がかかるなら、噴水塔を築山にして、もう少しモニュメントを高く上げ、ライトアップをするべき。夜に松阪駅に行くと非常に暗い。あれほど暗

い駅前はない。もっとライトアップしていくべきだと思う。こういったことを考えてもらい、これからの計画に役立ててもらいたい。

座長 具体的な提案がされましたが、ここで、市側の取り組みについて説明をお願いしたいと思います。その説明を聞いたうえで、また意見聴取を行なっていこうと思います。

牧戸参事 教育委員会の取り組み事業について、武家屋敷の改修計画、原田二郎旧宅の改修と公開計画、松阪城跡の保全事業について概要を説明しました。

村田部長 商工観光の取り組み事業について、観光案内PR、空き店舗対策について概要を説明しました。

稲垣部長 建設部の取り組み事業について、居住町並み整備、歴史的町並み整備、景観計画策定事業、本町・魚町のカラー舗装、駅前広場整備などについて、概要を説明しました。

座長 それでは意見聴取に戻りますが、交通アクセスの話の中で人を集めるために、案内看板の話がありました。松阪のイメージを伝えるときに、具体的にどんな松阪のイメージを伝えたいのか。また、具体的にどんな情報を発信すべきだという意見はありますか。

参加者 松阪もなかなか捨てたものじゃない。アクセスはもう出来上がっている。観光客を迎え入れて、やりくりしないと松阪の再生できないと思う。住民たちの努力があって、年間6万人ぐらいが来てくれている。まず3つのニーズがある。松阪牛をリーズナブルな値段で食べたい。もてなしがない。これが1つ。それと、田んぼや工場が残っているのに、世界の三井の再生計画がない。もう1つが、お城に天守閣がない。この3つのニーズが重要だと思う。それと、車で松阪に来たときに、インターからおりても車を止める駐車場がない。駅前に駐車場を整備して、半分は一般の駐車場で、半分はお城まで行くバスが着くようにすればいいと思う。伊勢神宮の遷宮、伊勢志摩観光ルートとの連携など地理的に松阪は便利なところだと思うが、駅にバスターミナルが無い。だから、たくさんのバスなどが来ても、もてなす場所がない。駅にバスターミナルがないのは松阪ぐらい。他の所はバスターミナルぐらいはある。バスターミナルをつくれれば、どんどん松阪に入ってくるようになると思う。JRも近鉄も三交も市も連携して駅前を再生させることを考えなければいけない。駅前に、松阪の食材の市場でも作ればどうか。りっぱな建物でなくて良いので広場とテント村があればできると思う。欲を言えば、国から補助をおろしてもらえば、駅前地下に地震などの災害がきた時のペットボトル（水）などの備蓄部分にすれば良いと思う。松阪は、もうほとんど出来上がっていると思う。一部をなんとかして、うまく

導入するともっと良くなると思う。

座長 松阪というイメージを伝えていくのに具体的ご意見はありますか。

参加者 松阪の街並みで他所には無いと思うのは、段違いのつくり。松阪の人達に、どれくらい認知されているのかは分からないが、お城の天守閣というのは、どこに行ってもあるが、街並みに関しては、段違いの家のつくりは他のところではあまり見かけないと思う。あと、昔から見ているのでそうは思わないかもしれないが、松阪の石垣はりっぱである。誇りをもっていいと思う。

座長 松阪の町並みが貴重であるというご意見でしたが他に意見はないですか。

参加者 何かを使ってという中で、松阪には、松阪木綿があると紹介していただきたいと思う。その松阪木綿を使った松阪観光手形という案を提案したいと思います。松阪木綿を使った手形を持っている人に街の人みんなでサービスするという案です。これは、これから考えていかないといけないと思うが、市民全体が観光客をもてなす側にならないといけないと思います。

ゴミを拾ったりというのがあったと思うが、いくら良いものを作って、良い街だとしても、ゴミで散らかった街を観光客が綺麗な街だと認識して下さるのか？そういうところから市民全体で取り上げていかないといけないと思う。

あとは、やはり松阪は牛なので、大学のときに東京に出ていたのだが、松阪＝松阪牛という答えを返してくれる人はあまりいない。

松阪市と松阪牛は別の単語になっており、なかなか簡単には、イコールになっていない。なので、先ほどから言われている、看板を設置して、そこから松阪と分かるように、やはり牛という形をモニュメントで示して、ここからが松阪です。ということを回りに知らせていかないといけないと思う。子供から大人まで誰が見てもここが松阪というのが分かるようなものを作るべきだと思う。

座長 伝えたい松阪のイメージは、松阪木綿、おもてなし、松阪牛そういったものを伝えたいということですね。他にご意見はありますか。

参加者 観光や歴史という方向で話が進められていますが、地元に住んでいる人にとっての住みやすい街という視点が忘れられているのではないかと思います。いかに地元的生活レベルを上げるか。もっと利用しやすいような街にする。郊外や県外へ買い物に行くのではなく、地元でもっと利用されやすいようにするべきだと思います。

司会者 この後半でお話を伺おうと思っていましたが、一旦置かしていただいて、市側の説明で文化財の保全の話がありましたが、松阪でこれは残しておいた方が良いというものについて意見はありますか。

参加者 歴史的文化ということで、射和の文化というのは必要なのではないかと。観光客にも分かるように、そういったものは駅前にあった方が良いのではないかと。先ほど、土産物の話が出てきたが、観光の拠点とできる土産館がほしい。

観光客の人は山手のほうまで見にいたりするのは無理があるので、そういったものが駅前であれば便利だと思う。

市長 物産館に関しては、商工観光の方から話が出たが、この駅前商店街の空き店舗対策を漠然とするのではなく、南三重地域に対してある程度ターゲットを絞った中で、南三重地域の物産館など、いわゆる空き店舗対策をしています。予算の関係では予想以上に空き店舗対策をしておりますが、中身を見てみるとバラバラで、ブティックであったりとか、食であったりとか、喫茶店であったりだとか、街の統一感が生まれないということもあり、ベルタウンのところも10店舗強が空いているので、そういったことを変える中で物産館的なことであったりとか、南三重が拠点になるようなあり方ということにも今後、検討していきたいと思っ

座長 ここでアドバイザーの先生から意見をいただきたいと思います。

岩田 今日は、中心市街地のまちなみ整備というテーマだったので、観光政策に方向が向いているが、中心市街地は人口が減少して高齢化している。それから、空き家とか空き地も多くなってきている。今、もちろん商業のほうも下がっているし地価も下がっている。

もちろん、観光も大事だと思う。でも、私はもっと基本的な都市基盤整備や市街地整備などがなされないと、いくら観光政策といっても人がいないような所に観光客は来ないと思う。

市長さんも、今の世代で必要なこと、次の世代で必要なこと、次の世代に残すこと、を言われていますが、今の世代にも必要だし、次の世代にも必要なものは、都市基盤整備ということ。現状では、道も狭いし、老朽家屋、空き地が多いのが現状。そういったものをどう整備し直すかが重要だと思う。ある程度、公共でやっていくのか、みんなで共同でやっていくのか、そういったことも考えていかないといけないと思う。肉とかホルモン焼きもいいが、そういったことも考えていただきたい。

松阪市の中心市街地に住んでみたい。と思う人が増えないといけない。あそこに行ってみたい。あそこに住んでみたい。中心市街地の定住人口が増えるようにならないといけない。

東京などの都市や中心市街地に人口が増えているのは、ある程度の都市基盤の整備がされているからであり、少なくとも都市基盤整備がなければ、再生は出来ないと思う。居住環境の整備が必要です。

座長 居住環境という話がありましたが、何かこれに関して意見はありますか。

参加者 やはり、地元の人が住みやすい、そして地元で買い物が出来るそして、これからの高齢化社会に向けて、外に出て行けない人達が増えてくるにつれて、やはり地元で、みなさんが美味しいものを調達できるようにしたいなと思っ

す。新しいもの、便利なものを地元で買えるような店が非常に少ないのではないかと思います。これは、郊外へ行けば、車で行けば買えるようなものだが、こういうものが地元で調達できない。生活に役立つようなものが、なかなか調達できない。そういったことを考えてもらいたい。

愛宕町は食文化に恵まれている街なので、そういうところをアピールして、ベルタウンを活かせるような街づくりをしていただきたいなと思います。

岩田先生の言う都市基盤整備のことはとても重要だったと思います。

座長 ここで質問をしてみたいと思います。これからも中心市街地に住みたいか？

今、中心市街地に住んでいる方は、これからも住み続けたいか？

中心市街地で住んでいない方は、これから住んでみたいと思うか？

○×で答えていただきたい。

⇒○×だいたい半々ぐらい。

こんなものが他に備わっていれば住みたいというのがありますか？

参加者 いろいろな話を聞かせてもらって、商店街としても、今ある物を使って活性化させていきたい。地域住民の方も喜んで住んでいただけるそんな街づくりをしていただきたい。駅前の整備、駅前の観光情報センターなどの整備などをお願いしたい。観光バスなんかを駅前に駐車できるようにすると非常に良いのではないか。こういったことを、みなさんに提案したいと思います。よろしくお願いします。

座長 他に住みやすい環境ということで提案はありますか。

参加者 古い民家というのが、だんだん無くなってきていると思うが、古民家というのは人気がある。たとえば、住む人がなくなった民家を借上げるとかして、都会でリタイヤした人に住んでもらい人口増につなげる。

ちょっと古い洋館タイプの家をピックしておいて、場合によっては借りたり移築したりして、店舗に利用してもらうなど、こういったことを考えてみてはどうかと思います。

座長 ×をあげた方で、こんなものが他に備わっていれば住みたいという提案はありますか。

参加者 みなさん住んでいる人たちの中で、今日ここへ来られている人たちは、年齢層も少し高くて、私も40代なのですが、学生さんたちや、一度、大学などに出てまた、戻ってきたりした若い人の意見をもっともっと聞きたいと思います。中学生、高校生、大学生達なら、どんな街なら残りたいと思うのか。住民のみんなが、住みやすい街にするためにも若い人たちの意見も聞いてみたいと思います。

座長 時間もおしてきておりますので、ここで前半のテーマを置きたいと思います。市長なにかご意見はありますか。

市長 交通アクセス、そして駐車場の話が出てきましたが、その件に関しては、非常に重要なことと思っています。一方で、今、交通整備をして駐車場などを作っても、それに見合った観光客が来るのかどうか疑問です。現在の松阪市に関して十分な都市基盤整備も含めたうえで、観光という面に関しても、これまでのもので十分だとは思ってはおりません。いいものがあるから人が来るというのではなくて、いいものをどのように理解してもらって人が来るのかという選別が今必要であると思います。まちづくりのコンセプトを松阪市がつくる中で、松阪市民が住みやすい街をつくと同時に、他の市民の方々から松阪市はこんなイメージでこれだから来ていただきたい。と言えるような戦略的なまちづくりのコンセプトというのを考えていく必要があると考えています。

座長 歴史と食、居住環境、都市基盤整備という観点から住みやすい街づくりについての様々なご意見をいただきました。ここで5分間の休憩を設けます。

<5分間休憩>

【テーマ2：松阪駅周辺の整備】

座長 次にテーマを移したいと思います。もうすでに、前半部分で大分ご意見を伺っている部分があったかと思います。バスターミナルを作るとか、駐車場の問題。駐車場については、先ほど市長からお話がありましたが、実際に松阪市の玄関口としての役割、おもてなしという意味での話もありましたが、何か駅周辺についてご意見ある方いらっしゃいましたらお願いします。

参加者 駅前ということなんですが、駅前及び駅前の商店街という範囲で申しあげてもよろいでしょうか。まず、駅前の話なんですが、駅前というのは松阪の顔であり、表玄関という見地から松阪駅及び向かって右側の旧三交百貨店跡地、及び左側の私有地を含む旧駅西再開発事業の目的のこの3つを一体と捉えていこうとしていただいたらと思います。一番右側に三交の跡地と一番左側の市の再開発予定地については、相関関係があると思われます。つまり、どちらを駐車場にするのか、どちらをショッピングセンター的なものをつくるのかというのが双方にかかってくると思います。その中で松阪駅というものは、我々どこへいっても「ここへ来たんだ」ということをイメージするのは駅なんです。駅前を見て下さい。薄ぼんやりと松阪駅という表示があります。JR松阪駅もあります。しかし、あの建物を見て、「ああこれが松阪か」というイメージがわからない。したがって、JRの駅で具体的に言えば2階部分がまったく使われていないのではないかと思いますので、これをJRとどこかが協力をして、津市のような、店舗を併用して、一蓮托生で3つのものをうまく機能させるということが一つの肝要かと思います。

それから同じく駅前の話なのですが、もう一つ、かめやさんの前にある建物の

一角に約 600 m²しかないと思われませんが、ここも戦後まもなくできたということもございまして、松阪の駅、駅前ということの玄関口のイメージを考えればあそこも再開発すべきだと思います。もちろんそれには、地権者の話とか、どういうふうにまとめるのかということもありますが、イメージとして考える場合にはこれらを再開発したら松阪の玄関口としてはきれいになるのではないかと思います。

続いてベルタウンについてですけれども、シャッター店舗、あるいは店舗の構造がどうなのかという点が、問題になるのではないかと思います。まず構造的な問題については、入口が地権者の問題もあるが、一間、一間半と狭い店舗で、これから何を売っていくのか、あるいは市民が入居を言ってきたときに、あの店舗で、お客が入り乱れて買い物して行くような店舗構造であるかどうかという点です。つまり、あの店舗で生き残っていくことはいかなものかということです。

それから入居条件ですが、聞くところによると家賃より保証金が非常に高く、これから企業家として店舗に入っていくという方は、金銭的な負担がある程度あるのではないかと思います。これは、振興組合というのがありますので、そこらあたりの入居条件を見直してみる必要があるのではないかと思います。

それから品揃えですけれども、人が集まってくるということを考えれば人口、人の口が大事なのです。口に見合ったものをそろえないとダメだと思います。言い忘れましたけれど、駅前の三交と左側の城との関連ですけれども、ここには広場があり、芝生があり、緑があり、イベントが出来る、そういうような憩いの広場というものを併設されたらいかがかと思う。これは、学生さんであっても、イベントであっても、とにかく集まってくるということが大事だと思うし、そういうものが話題になって何回も何年もなしていくことによって、有名になり、また松阪駅前に行こうか。それにはやはり人を集めるということも大事ですので、公共交通機関（コミュニティーバス等）、これらをもっと充実させて、駅前とあるいは松阪城の間にシャトルバスを走らせるなり、市民の足をもう少し充実させることも検討課題ではないかと思っています。

座長

ありがとうございました。かなり広範囲にわたって効果的な提案をいただいたかと思いますが、前回にありました駅前の一体を繋げようという話ですね、旧三交百貨店跡地とJRの北と駅西地区の一体的な利用という話があって、それぞれ具体的な提案をいただいたのですが、先ほど市の方からも都市計画決定としては、駅西地区の開発計画が立ってしまっていて、高度事業と呼んでいるのですが、マンションを建てたりですね、そのような計画が残っているんだという話があって、それについて住民の皆様のイメージをお聞きしたい。概要はもうお話をいただいているのでよろしいかと思いますが、それについて何かご意見あ

りますか。

参加者 2回目なのですが、駅の線路を挟みまして、階段でいうと、海の方と山の方とに分かれるのですが、高速道路も言ったら確かに駅前だと思いますけれど、駅裏という、松阪駅の駅裏が何とか出来ないかと思うのも一つの私の考えです。車で来るのに、私らはいつも駅前の方へ行くよりか、駅裏の方で何かをします。その方がやはり便利なのです。駅前も大事なのですが、駅裏のほうも利用。私が思う限り、駅前のほうは歴史とか文化とかそういうものにして、駅裏の方は商業というのですか、人が賑やかにしてもらって、楽しくやってもらえるものが駅裏に出来たらと思う。

私のもう一つ思っているのは、駅西開発ですか。そのことで思っているのは、これから地方分権とか色々言われています。そういうことになれば、そういう憩える、団体が入れるような施設が松阪市には無い。安く借りられるような所もない。駅の西かそういったところに、会議室等の集える所を作ってくれるとか、みんなが集えるように福祉の施設と言われましたが、そのような市民の人たちが来ることが出来るようなものを作っていただきたいと思う。

座長 前半の駅前も駅裏も一緒に一体にするということですか？

参加者 駅前と駅裏を線路が二分しているので、それを一体的に歩いて行き来できるようにしてもらえれば良いと思う。

津のアストのような、駅前が良いかどうかは別として、ああいうものを駐車場兼市民がそこに行って気軽に集えるような、話が出来ると、会議が出来るとようなところも、これからは地方分権と言われるので必要かと思う。

座長 ありがとうございます。駅西地区について、何かご意見があれば。

参加者 駅前開発、観光、はたして、そればかりでいいのか。かつて、駅前は毎日賑わっていた。さて今の現状は、商店街ではない。松阪には周辺に大型店舗ができており、今の商店街には競争力がない。松阪で必要なもの、それは交通整理が必要である。歩行者と車両とを分離して安心して歩ける松阪にしないといけない。

駅の横にマンション、これはないだろう。あんなバカな計画は考えられない。開発は結構ですが現状を良く見て、計画を立てていただきたいと思います。

座長 交通整理が必要であるということと、箱物は必要だが現状を良く認識してということですね。他にご意見がありますか。

参加者 駅西再開発について、駅前に人が集まってくる優位性があるのか疑問です。駅西開発も破綻しており、1億2千800万円の損害賠償を払えと裁判所に告訴されている。敗訴すれば1億2千800万円の税金が使われようとしている。多くの市民と市議会議員が賛成したのに、前市長の判断で止めと決まると中止に賛成となり、あまりにも意志がない。裁判で敗訴した場合は、出来る限り少ない金

額で解決を図ってもらいたい。

駅前開発というものが経済的に成立するのかどうか経済学者に聞いてみたい。

座長 市街地再開発事業、何らかの事業を行なっていくべきかどうかについてお聞きしたいと思います。再開発事業が必要であると思われる方は○、必要ではないと思われる方は×をお願いします。

⇒○×ほぼ半々でした。

座長 ×を挙げられた方で、なぜ再開発事業が必要ないということでしょうか。

参加者 皆さんが言われたみたいに、今のまま開発をしても人は本当に来るのかというのはすごく疑問で、地権者の方も含めてこのままで良いのかというところが一番ネックになっていて、箱ものだけ建てても、土地開発というか整理をしても、人が本当に集まるのかがすごく疑問で、住みたいか住みたくないかという質問でも×にさせてもらいました。車生活になっていて、どこに行くのにも車に乗るのですが、駐車場も含めて、例えば家を借りたりとか、建てたりとか、車でどこかに行こうと思ったときに、駐車場が全然ない、道が狭いとか、色々なことがあって、やはりもう少しすべての面でいろいろ考えてもらわないと賛成できないという感じです。

座長 現状を踏まえた上で考えるべきだということですね。他にご意見ある方いらっしゃいますか。

参加者 私は市議会議員ですので、発言を遠慮しておりましたが、×と手を挙げた人が少なかったのです。一つに、一般的に言いますけれども再開発手法には限界がある。そして、都市づくりの画一化を招く。この元凶であるということ。この制度そのものを活用することは、松阪のまちづくりにとって好ましいことではない。もっと別の方法で、都市再生ということを考えるべきである、そのように考えている。またその意味については、具体的、専門的に市民の多くのみなさんにとってもわかりやすいように、噛み砕いて解説をしていただきたい。

座長 ○を挙げた方で、是非にという方がいらっしゃいましたら。

参会者 公的資金を入れることは、段階的にお願いしたい。まず例えば、ベルファームの隣にアウトレットモールがあったとして、それを目指して、例えば店に行かれた人たちが松阪で降りられると、その人たちが松阪の駅前に行ってみたいというふうな状況に変わってきた場合に、公的資金を入れて駅前再開発が行われることは構わないと思うが、人が増えてこない段階から、先に作るために公的資金を入れたとしても意味がない。先に人を集めてから、作るのが民間の考え方だと思う。どうしても、官庁の方は先に物を作った後で人が集まると踏んでいますけれども、3年~5年で計画が行き詰るのが現状です。

座長 ○だけでも、現状をよく見てですね。ありがとうございました。もう一人、お聞きしたいと思います。

- 参加者 私は○として挙げましたけれども、先ほど開発の話があったのですが、要するにこれは前回の西開発の反省の折に立って、新しくどういう構想で、且つどういう形で進めるかという事を話合う原点だというふうに理解しているが、それでよろしいでしょうか。
- 座長 前計画が白紙になってからですから、そういうご理解で結構です。
- 市長 一言述べさせていただきますと、もし先ほどちょっと誤解がもしかしたらあるかもしれないので、説明させていただきますと、この今の白紙になった、松阪の駅西地区、特に松阪市が持っているだけでなく、様々な主体が持っているしゃる土地、日通さんであったりとかで、そういったところが持っている土地を活用することを今は都市計画決定という形で拘束する形で、その土地が使われるのか使われないのか、そして今後活用するのか、又はそれを外す中で民間に対して自由に使って下さいと今後言っていくのかという部分で、駅前全体とまちづくりとは違う部分で駅西再開発事業という部分を松阪市が責任を持って、ある意味、私有地をある程度制限をする中での、松阪市として都市計画の中で進めていく必要があるのかという事を説明させていただきます。
- 座長 私の質問の趣旨が伝わっていないと思いますので、もう一度○×を挙げていただきたいと思います。おそらくみなさんが、再開発というもっと広い意味で○×を挙げていただいたと思うんですね。今の市長の意向を受けまして、現都市計画決定、ある意味で土地の市街化ですね。そういった中での、再開発を続けるか否かということをお×で回答をいただいているということです。
- 参加者 それで結構です。つまり前回の反省に立ってというのは、西地区の反省というのは、この駅前西開発にとって大きな一つのイベントであったわけですから、これを教育材料にして再開発するのが良いとみなさんおっしゃるのだから、その再開発エリアに新しい構想で着手していただくというような考え方をもっていただきたいと思います。
- 前回の反省に立ってという問題は、いくつかあると思いますが、先ほど出ましたお金の問題、官と民との問題をどう調整するのか、それからその推進部隊のあり方、それからさらに言えば、駅前に必要な機能は大体決まっているわけで、どういったものが優先順位が高いんだという議論がしかるべきだろうと思いますし、店がなかなか駅前に集合してこないというのは、過去の反省に立って、いわゆる大店法をどういうふうに施行してきたか、あるいは実施してきたか、これも行政との関わりの問題で、つまり郊外に大店舗がどんどん出来たわけで、それでそれが便利だから皆さん向こうに行っているわけで、それをどのように市内に持ってくる事が出来るのか。それじゃあ、今新しく改正されたと思うが、大店法の理解の仕方、あるいはそれをどういうふうに適用していくのか、そういうことを含めて考えないといけないと思う。前回の反省を十分に、

そして行政も先ほどの大店法の問題も十分反省していただいて、新しい着工に入っていただきたいと思います。

座長 私の方で皆さんに聞いた質問が、違う理解としますので、もう一度聞きたい
と思います。現都市計画決定がなされている開発事業、これについて行うべき
か、行なうべきではないかという〇×を取りたいと思います。

⇒×の方が少し増えたようではすけれども、半々ぐらいですかね。

旧計画にはこだわらず、再開発事業を行うべきか、そうすべきでないか。旧来
の計画を一度外して、今後の話として行っていくべきか、そうではないか。

⇒〇の方が多くなったかと思われま。

駅前再開発については旧計画を見直して、中身とか質について十分検討して計
画するなら事業を行なっても良いというお考えの方が多いいいことですね。

あと、駅前広場について、または三交百貨店の跡地について伺いたいと思いま
すけれども、ご意見がある方は挙手をどうぞ。

参加者 私は三交跡地には伊勢のおかげ横丁のようなものができると思っていましたが、
駐車場になりました。駅西のところは、松阪市は国からペナルティをもらった
と思います。国はなかなかうんとは言わないだろう。駅西も東も南も北もみん
な含めて考えないといけない。どうして、駅西開発が失敗したのか検証して下
さい。松阪は商業のまち、歴史を振り返ってみて下さい。昔は周りの町から人
がたくさん買い物にきて賑わっていた。どうして、こんなに廃れた商店街にな
ってしまったのか。これもしっかり検証して下さい。

駅西の市営駐車場、三交跡地が駐車場になったとたんに、土日はガラガラにな
ってしまっている。何とかせなあかん。ここには、商業施設をもってきて、カ
ンフル剤にして、町を活性化させて下さい。これしかないよ。

座長 検証した上で、商業施設というお話ができましたけれども、比較的第1回目から
商業施設と言う声があって、これは希望に応えたいという形になると思いま
すが、他にご意見がある方いらっしゃいますか。

参加者 駅前広場についての提案ですが、駅前土地が限られています。駐車場が少な
いのでという話がありました。そこで提案なのですが、一つの案として地下に
駐車場を作るとい案もあるかと思いま。今のタクシー乗り場とバスターミ
ナルの下に駐車場を作れば、約20~30台は確保できるかと思いま。イベント
広場という話もありましたが、土地も限られておりますので、それを2階に持
っていくと、広場の2階に持って行って屋根を付けてイベント広場を持ってい
ったらと思いま。その周囲に通路を広めにとって、そこに店等を出せるよ
うにして、市場とか朝市とかそういうものを設けるようにしたらどうかとい
う一つの提案です。

話は戻りますが、食と歴史という話がありましたが、歴史についてですが、松

阪は城下町であります、現実には商人の町でもあります。町の顔に二面性がありそこを上手く視点を考えてないと中途半端になってしまうのではないかと思います。

食ですけれども、これは松阪はというと松阪肉というところですが、牛というように述べましたけれども、松阪肉と松阪牛は違うと思う。やはり松阪には、肉を食べに来るということですから、牛を見に来るわけではないので、牛の看板というか絵があれば、これが解体されてというように思ってしまう人もいますかと思われ。あまり牛を前面に出し過ぎても、違和感を感じるという気がしました。

座長 駐車場の設置を提案ですね。時間もおしていますが、他に特別にご意見あればどうぞ。

参加者 三交の駐車場ですが、全部は整備していない。砂利を置いただけで、いつでも変わるということ。それと、皆様にもう一つ聞きたいのですが、今、松阪市はお金がないのに、お金をかけてこんな話が出ています。お金があれば良いと思うのですが。ところが、商売をするのでも、松阪市民を相手にして商売をするのか？それとも、もっと違う台所、マーケットにした商売にするのか。そういったところを大きく考えていた方が、どれだけ良いものを作っても、需要と供給で考えなければいけないと思います。一度、松阪市を外から見てもらって、どんなふうにしたら良いかそういう意見を聞いてみてはどうか。

座長 最後にもう一人ご意見あれば。

参加者 松阪駅ですが、再開発が壊れたという計画がなくなったことによって、松阪駅はもうすでに40年近くなっている、耐震計算したら潰さなければいけないのかなあと思っています。あそこ三交と駅前、もしも松阪が20万都市になるのなら少なくとも松阪駅を降りて、申し訳ないが第三銀行とその向こうのビルは取っていただいて、右の方の東海銀行もなくしていただいて、サンルートぐらいまでが少なくとも駅前だというくらいのランドデザインというか、そういうものが描けたら、少し松阪駅と言って、もう本当に近視眼的な人しか松阪駅の空間が見れないというのでは、少し寂しいのではないかと。それと私でしたら建築をやっていますので、もしも出来れば世界中の建築家があそこに見にきたい、たむろしたいというような計画を思い切ってコンペをして、世界的に有名な建築家が寄ってたかって、またその結果を建築家達が見に来る。それで末永くなって、世界的遺産になるようなものが建てば、これこそ松阪になるのではないかと思います。

すばらしいまちを、駅前を作っていただければと思います。店舗とかいろいろあるけれど、本当に中に住んでいる者にとってあそこを交通アクセスの拠点として考えるのならば、大きな駐車場を建設していただいて、郊外の方が松阪の

街中へ来て、あそこから県外へ出て行くなり、通勤するというようなポジションにあってでもいいのではないかと思う。確かに、松阪の今までの市営駐車場、ガラガラだったりする、三交の駐車場が一気に目一杯になっているということは、まだユーザーがいるのではないかと思います。

座長 ありがとうございます。まだまだ、ご意見があると思いますが、時間もおしえてきていますので、意見を聞くのは終了したいと思います。ここで、アドバイザーから意見を聞きたいと思います。

浅野 テーマ 2 の松阪駅周辺の整備についてですけれども、参加者の方々からも発言がありましたけどみなさんご承知のとおり、2006 年にまちづくり三法が改正されて、中心市街地の衰退の理由の一つとなった 1 万㎡以上の大型店については都市計画区域内の商業地や、近隣商業地域等にしかできないというようになりました。最近の記事を見ると、改正された都市計画法の影響はもうすでに出ているという報告があります。大型店の郊外進出はストップしている、市街地の既成市街地の方に戻ってきているという結果が出ています。これは、企業も十分に法改正調査をしていますから、既成市街地で大型店の用地等を探していることを物語っています。郊外の大型店に関しても、採算の取れない郊外の大型店を閉鎖したり、あるいは店舗の形態を変えていくというように一斉に見直しをしています。

また、外食産業も郊外の大型店を徐々に閉めてきているというのを皆さんご存知だと思います。まちづくり三法はまだ改正されて日が浅いので、大きな変化は三重県の中でもなかなか見えにくいかも知れませんが、もう大型店を郊外に自由に出すのはかなり制限がかかってきますので、それを見通して松阪の中心市街地、駅前も考えていく必要があると思います。

私は、三重県の都市計画マスタープランの見直しをしていますが、中心市街地の衰退は三重県全ての都市共通の深刻な問題です。それで、県としても広域の視点から、さらに、まちづくり三法のルールからもう一步踏み込んで、各都市ごとに拠点を作って、その拠点にしか原則新しい 1 万㎡以上の大型店は認めないということで、一步踏み込んだ内容で三重県の中心市街地を応援するという方向で対応しようとしているところです。

県の都市計画マスタープランはまだ完成してありませんが、見直し内容はホームページに公表されていますので、関心があればご覧下さい。こういった大きな動きと連動して、松阪の駅や駅中心にして、これから出てほしいと思う機能は、一つはやはり医療や福祉や居住が複合した機能、これは、他の地方都市でも同じような感じで動き始めているところも出ています。最近ですと、津市でも津駅から歩いて数分のすぐ近い所に、介護付きの高齢者専用の集合住宅が出ていました。いよいよ、中心市街地で高齢者の方をケアする医療や福祉や住宅

がセットになったビジネスが動き始めているという状況だと思えます。

福祉分野でもこのように新しいビジネスモデルを中心市街地に展開するといった方向でいろいろ検討していると思えます。

あと、子育ての支援をしていく機能も、ぼちぼち街中のビルなどに入ってきていますので、これからは高齢化支援とあわせて、子育て支援みたいなものも必要となってくるのではないかと思います。

それと、先ほど市民の方が言われた通り、駅舎はやはり重要だと思います。最近、駅舎はまちのランドマークにしていく、まちの顔としてまちづくりの体制の拠点にしていくということで、木造が駅舎を再生する事例がぼちぼち増えてきました。JR九州は宮崎の駅を地元の木材を使って、地元の若い建築家の方と著名な建築家が協力しあい、新しいランドマークとなるように地元の林業の活性化の起爆剤も兼ねて木材で企画するという取り組みをしています。JR四国の高松、高松もそういった取り組みをしています。松阪もやはり、木材、林業の活性化ということもありますし、小学校や中学校も木造で建替える動きが出ています。林業の活性化、地球環境の対応、産業廃棄物を出さない施設ということで、木造建築等を中心とした温かみのある広場に空間整備をするという取り組みが始まっています。

中谷 ほとんど浅野先生に喋っていただいたので、私は近未来の商業について、今の浅野先生の話に反論するわけではないんですけども、非常に時間のかかるプランになっています。近未来、この松阪市の中心市街地、それはやはり、先ほど話にもありましたが需要と供給のバランスがしっかりとれてなければいけない。ドンドンお金をかけても、今度はここでお金を生む仕組みがこの中になければ、借金が将来残されるかもしれない。私の専門は今商業でやっていますが、そういう商売は今どのように生き残っているんだ。そういう施設が出来たところ、商店街がひとつもなくなった。今度は大手のチェーン店がどんどん入ってきて、既存の商売人がひとつもない、昔ながらの町じゃなくなったというケースも出ています。近未来の中でバランスのとれた形を投じていくのかというのが、これからのキーワードかなと思っています。

市長 本当に今回は様々な方に来て、議論していただき、議論というよりは、意見の提示を具体的なところでいただいたと思います。時間で帰られた方もいらっしゃいましたが、その方々にも帰られる前に多くの意見をいただきました。PRをもっとすべきではないか。イメージの看板を作るべきではないか。駅から松阪城までの歩きやすさというものを植えつけるべきではないか。あとは松阪の文化にも配慮すべきでないのか。そして、居住空間という形での、都市基盤整備をしていくべきではないか。地域外から来て利用しやすい場所とウィークポイント、地域外からこられた方々にまちとしPRしていく部分と、松阪市民が

利用しやすい場所という部分を含めて考えるべきではないか。その他、本当にたくさんの様々な観点からご意見をいただきました。

そういう部分に関しても、今回こちらの方で整理させていただく中で、一度私たちとして3回目においては、具体的な提示、かなり具体的に示した形でこうしていくという提示をさせていただきたいと思っております。今回はかなり、謙虚に聞かせていただきましたし、今回、活かせる部分が非常に多かったと思っております。

3回目は12月5日になりますけれども、12月5日土曜日にはこちら側から、かなり明確な意思表示が出来ると思っております。今回の説明は、これまでの松阪市の携わってきた部分についての説明はありましたけれども、次にこちらから話させていただくのは、今後のあり方に関して、具体的なビジョンというものを最低限12月5日に提示させていただく予定です。

一言付け加えさせていただきますと、先ほど松阪の駅西地区の再開発事業に関する議論がありました。まだまだ、市民の方々にご理解いただきにくい部分もありますし、これに関しては議論を重ねなくてはいけないと思っておりますが、私自身この市街地、駅西地区についての、今色々なご意見をいただきましたけれども、再開発事業に関しては、私はもう進めていくべきではないと思っております。というのは、先ほどの質問を変えさせていただいた時に、駅前再開発事業をどうすべきか。というのに必要がないというのが、半々の答えでした。半々だったんですけれども、中身によってはという質問に代えれば〇が多くなりました。ただ、中身によってはというのは、松阪市の土地であるならば中身によってはということを入れるんですが、現実的には私も地権者の方々と何度となくお話をさせていただいておりますし、これまでの経緯の中でかなり議論している中で、中身というのが当然利害関係が非常にある方で、先ほど中谷先生が言われましたように、需要と供給のバランス、そして民間企業がある意味、儲かるぞという視点からの都市計画という部分にしかない。その中で本当に、お金のかけ方、駅西地区に対してのお金をかけるかけ方と、本当にその効果を考えていきますと、私自身は、他のまちづくりに対して同じお金をかけるのならば、違う部分での再開発、又は違う部分での松阪駅の基盤整備であったり、商工観光の発展という部分に対してお金をかけるやり方があるのではないかと考えています。

現時点においては、駅西再開発事業に関しては前向きには考えておりませんし、もし前向きに考えるのであれば、かなり地権者の大きな理解を得られるような、かなり大きなビジョンというものを作らなくてはなりませんけれども、そのようなビジョンは逆に市民の方からも提案がございませんし、松阪市として、ホテル、マンションという形のある意味、地権者から喜ばれるようなビジョン

というものを投げていくことが市民に受け入れられるとは思っていません。その辺のバランスの中で、私自身まず、駅西地区に拠点がない。旧来の駅西開発地区には拠点がない。まちづくりというビジョンを今後打ち立てて行きたいと思っています。その中で松阪っていろんな方から言われましたけれども、良いところがたくさんあるんです。文化もあれば、歴史もあり、食もあれば、街並みもあるという中で、すばらしい人材がそろっています。その中で、それをどう活用するか。そして松阪市に住んでいただくために、松阪市に観光に来ていただくために、ソフト面でのコンセプトというものも含めて考えていきたいと思っています。そのあたりも含めて、3回目にはある程度限定した形の、こちらとしてのコンセプトもある程度明示させていただき、具体的な、冒頭では食と歴史という部分でコメントさせていただきましたが、具体的に皆様方に目に見える形の議論を見せていきたいと思っています。

座長

ずいぶん長い間お付き合いいただきまして、ありがとうございました。私の考えを述べるという話があって、たくさん考えさせていただいたことはありますが、いくつか披露できる考えを述べさせていただきます。既存の資源を利用してやっていくという方向性は、すごく大事なことだと思いますし、今日も色々な方から何点か言葉をいただいたというのは一つ一つ貴重だと思います。あとは、調和できるものは調和して、調和できないものはどうしていくのかという行政的な判断というか公共事業のほうに判断が入っていくことだと思います。それに対してお金もかかってきますので、このことはやはり市の方も真剣に考えていかなければいけないと思っています。いずれにしても、今後高齢化が更に進展していったら、おそらくは今の国の税収が景気が悪い時には40兆円ぐらいですから、松阪市も税収の面では、これから今までと同じような予算はなかなか出来なくなってくると思いますけど、財政面ではかなり厳しくなっていくということ。もう一つは人口構成で言えば、今還暦を迎えて少し経った方ぐらいがベビーブームなんです。その方々が今60代ですと普通に車に運転できますが、ただし80歳になって90歳になってくると、そうもいかないと。そういった中で、中心市街地というエリアをどう考えていくのかというのが、市全体のマネジメントの中で中心市街地をどういうふうな役割をして、持たせて。そういう意味では、今日と1回目の議論の中で、観光客の方々に来ていただくということも重要ですが、安心して住めるまちとして広めたいと思います。今より20年後ですね。そういう意味では今から20年後に対して準備をしていくという話が非常に難しい話なんだということが、マスタープランを提案させていただいていくつか感じています。この辺は、うまく政策として提示していただく必要があるのではないかと考えます。

ということで、本日は、まちなみ整備と松阪駅周辺整備ということで議論していただき、松阪駅周辺についてはもう一つ本当は商店街について具体的に取り上げて、ご意見いただこうと思いましたが、途中でいろいろご意見いただいたということもありまして、時間の関係もありましてこの部分までできなくなってしまいました。全体にわたっての意見ですが、市長とも検討した上で、次回は具体的な提案といった話があったかと思いますが、おそらくこれまでの議論が何らかの形で活かされるというか、受け止めた上での提案があるのではないかと思います。

本日は長い時間ありがとうございました。

5. 閉

司会者

会

本日は長時間にも関わらず皆さんに集っていただき、大変ありがとうございました。

時間の都合でご意見を発言することができなかった方、また、ご意見がある方は、アンケートにご記入し、ご提出くださいますようお願いいたします。

次回3回目は、12月5日（土）午後1時30分から、場所はここと同じ産業振興センターで開催します。多数ご参加下さいますようお願いいたします。

これもちまして意見聴取会を終了いたします。

以上